

新春特集

夢を 草津から

小さな努力を積み重ねて
「遠い夢」だった場所に
いま立っている

夢や目標、生きがいを持って「健幸」に過ごすためにはどうすればいいのでしょうか？そのヒントを探るため、スポーツ選手として草津市をフィールドに活躍し、KUSATSU BOOSTERSである滋賀レイクスとレイラック滋賀FCの選手にお話を聞きました。どのようにしてスポーツ選手という夢をかなえたのか、競技との出会いや練習の工夫、スポーツへの思いを語ってもらいました。



滋賀レイクス
森山修斗選手

プロフィール
1996年生まれ。滋賀県草津市出身。玉川中学校に入学し、バスケットボールを始める。瀬田工業高校3年生のとき、全国大会に出場。2021年に滋賀レイクスターズ(現:滋賀レイクス)に移籍。ポジションはSF(スモールフォワード)。

大学から声が掛かり プロを意識

滋賀県立瀬田工業高校に進学したのは、同校を卒業して就職した兄に憧れて「仕事するのいいな」と思っていたからで、高校を出たら就職するつもりでした。それと、県内のバスケットボールの強豪校に行くより、全国大会出場などの実績があまりない高校のチームに入って、強豪校を倒して全国大会に出て、みんなを驚かせた方が面白いなども考えていました。大学からバスケットボールで声がかかって初めてプロを意識しました。両

親や監督の勧めもあり、大学に行くからにはプロをめざそうと心に決めました。

プロのバスケットボール選手になること、そして滋賀レイクスのメンバーとして滋賀でプレーすることが中学生のときからの「遠い夢」だったので、レイクスからオファーをもらって本当にうれしかったです。

休日は琵琶湖岸でリラックス

小学生の頃から家族と一緒に草津市の琵琶湖岸でバーベキューを楽しんでいました。今でも休日に、ふと思いついて一人でキャンプに行ったり、仲間と一緒にバーベキューやキャンプをしたりしています。湖岸で見晴らしが良く、美しい自然のロケーションがいいところは、琵琶湖周辺でも草津市以外になかなかないと思いますね。琵琶湖の湖畔でリラックスすることは、お気に入りの休日の過ごし方です。

こつこつ努力して 人間として成長したい

自分の目標は、バスケットボールだけでなく人間性も含めて、さまざまな面において楽しみながら成長し続けること、現状にとどまらないことで



す。どれだけ小さなことでも成長していけば、数年後に大きな成長になっていると思っています。

自分は高校のとき、全国大会に出場していますが、日本代表に選ばれるなどの目立ったキャリアはありません。努力を重ねた結果として、プロになれたらいいし、なれなかったら別の道を歩めばいいと高校を卒業するまで思っていました。常に全力でやって、あとは結果がついてくるかどうかだけ。努力が全てではないけれど、こつこつ努力し続けた結果、最終的な目標にたどり着けたと感じています。

プロは現実味のない 「遠い夢」だった中学校時代

中学校の部活動で、なんとなく面白そうだな、友だちも入ると言っているし、くらいの気持ちでバスケットボール部を選びました。最初は練習がきつと感じましたが、バスケットボールはシュートを打つ回数が多くて、シュートが決まったときの喜びが味わえて、すぐにバスケットボールが純粹に楽しくなりました。

試合で自分がイメージしたようにプレーできなかったり、分かっているのにできなかったりする自分が嫌になることはたびたびありました。でも、バスケットボールをやめようと思ったことは一度もありません。練習の後でスイッチをオフにして、友達と話すバスケットボールが本当に楽しくて好きだったんですよ。

初めてプロの試合を間近で観戦したのは中学生のとき、レイクスのホームゲームでした。プロのプレーに圧倒され、演出もあって会場全体が盛り上がり、すごい迫力でした。プロはすごいな、ああいう場でプレーしてみたいなと憧れはしたものの、当時の自分にとっては「遠い夢」で、現実味のない憧れでした。

皆さんも、スポーツに限らず何事においても先を見据えて、その時にできることをこつこつ努力して、夢に向かってがんばってほしいです。

草津市で毎年開催されるYMITアリーナでのホームゲームでは、満員の会場で皆さんから熱い応援を受けて勝利する喜びは格別で、強く記憶に残っています。

今年も1月31日(水)にYMITアリーナでのホームゲームがあります。ぜひたくさんの方に観に来ていただいて、皆さんと勝利の喜びを分かち合えるように僕たちも全力で戦います。今年も応援よろしくをお願いします！



滋賀レイクス キャプテン
柏倉哲平選手

くからでも走れるようになったんです。サッカーのためなら、坂道を走るのも楽しい！(笑)

周りから見たら「がんばっている」と思われたかもしれませんが、走ることは自分にとっては「当たり前」で、努力とは思っていませんでした。ただし、見当違いな努力をしても意味がないので、自分に何が足りないのか客観視してみてください。でも「自分にはこれが足りない」と思っている、それが違っていることもあり。だから、自分に合ったやり方を見極めて教えてくれる人に巡り会うことが大事です。あとは「努力し続ける能力」も必要だと思います。



全てはサッカーのために！ 「感謝」の思いを胸に 滋賀初Jリーグチーム誕生に挑む



レイラック滋賀FCキャプテン 山口真司選手

プロフィール
1996年生まれ。兵庫県神戸市出身。幼稚園のころにサッカーを始める。ヴィッセル神戸U-15、ヴィッセル神戸U-18を経て、2014年ヴィッセル神戸でプロデビューを果たす。2020年MIOびわこ滋賀(現:レイラック滋賀FC)に移籍。ポジションはDF(ディフェンダー)。

草津市は住み心地がいい！ お気に入りの湖岸の夜景

4年前「MIOびわこ滋賀」(2023年「レイラック滋賀FC」にチーム変更)に加入するまで、草津市はほとんど知りませんでした。移住してみたら、草津市は予想以上に住みやすいまちでした！交通の便が良く、京都などにも行きやすく、落ち着いた雰囲気、買い物にも困りません。草津市に住むか迷っている人がいたら「住み心地いいよ！おいだよ！」と誘いたいくらいです。

草津市のお気に入りの場所は、夜の湖岸道路です。対岸の大阪の夜景が湖面に映ってきれいで、夜景を眺めるためによくドライブしています。上から眺めるのは違った、平面での夜景の美しさが新鮮です。

モットーは「感謝」 一言に込めた思い

モットーは「感謝」です。幼少の頃から生活の全てをサッカー中心にして支えてくれた両親、チームの仲間やスタッフのサポートがなければ、サッカー選手としてここまでくることはできませんでした。その思いを込めての「感謝」です。レイラック滋賀FCに移籍してから、チームのスタッフと接す

る機会が増え、いろいろな面でサポートしてもらっていることを間近で見ている。感謝の思いがより深くなりました。

昨年11月、J3クラブライセンス交付が決定したのも、膨大な書類を作成して込み入った手続きをクリアしたスタッフのおかげです。それも、わずか1年という驚異的な短期間で！ライセンスが取れたことで目標が明確になり、チーム全員のモチベーションが目に見えて上がりました。スポンサーやスタッフの皆さんに対する「感謝」の心を忘れずサッカーをしていきたいです。

レイラック滋賀FCの、そして僕らの目標も「J3昇格」です。草津市の皆さんに、Jリーグをめざしてがんばっている「レイラック滋賀FC」と

抱き合って喜び合える サッカーに魅せられて

サッカーは幼稚園から始めました。両親はサッカーに興味があったわけではなく、夜にちっとも寝ない子どもに困って運動させようと考えたみたいなんです。小学校からは少年団、その後クラブのユースチームに入って、プロになりました。サッカーをやめたいと思っただけは一度もありません。チームメイトみんなと一緒に一つの目標に全力で向かって、勝った瞬間に抱き合って喜ぶなんて、普通の生活では味わえないものです。競技を通して人とつながれること、それがサッカー、そしてスポーツの魅力です。サッカーを続けてきた理由はそこにあると思います。

うまくなるために必要なのは 自分を客観的に見ることに 努力し続けること

中学生の頃、チームの練習がない日は一人でよく坂道を走っていました。試合の途中で体力が切れて走れなくなるのが悔しかったんです。もちろん最初はきつかったですよ。坂道を駆け上がるようになってくると、この距離を何秒でと目標タイムを決めて走りました。そうすると、試合でもい

いうサッカーチームが草津市で活動していることをまずは知っていただきたいですし、知っている人はチームの存在を周りの人に広めてほしいです。ぜひスタジアムに試合を観に来てください。皆さんの声援が僕たちの力になります！



レイラック滋賀FC 監督 菊池利三さん

昨年2月「MIOびわこ滋賀」から名称を一新して「レイラック滋賀FC」としてスタートを切りました。草津市の皆さんに、滋賀県初のJリーグチームとなることを目標とするレイラックの存在を知っていただきたいです。そして、スポーツ観戦や応援が生活の一部となるように、スポーツの楽しさを伝えていきたいと考えています。J3に向けてがんばっている選手たちの活躍にご期待ください！